

2011 年度 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点 研究プロジェクト 研究計画書

2011年 4月 22日提出

1. 研究プロジェクト名		「『外地』日本語文学データベース」プロジェクト
2. 研究プロジェクト代表者		木村一信
3. 研究班 メインとなる研究班 その他		京都文化研究班
		日本文化研究班
		歴史地理情報研究班
		デジタルアーカイブ技術研究班
		Web活用技術研究班
4. 研究期間		2011年 4月 ~ 2012年 3月
5. 研究メンバー		
種別	氏名	所属・職名
事業推進担当者	木村一信	ブール学院大学・学長、立命館大学・特別招聘教授
特別招聘教員		
研究員		
客員研究員	楠井清文	立命館大学衣笠総合研究機構
PD		
RA	三上聡太	立命館大学大学院文学研究科博士課程後期課程・D2
学内研究協力者		
その他		

6. 2011年度教育研究計画（今年度の教育研究内容、目的と結果の予想の関係が理解できるようにご記入ください。特に若手研究者（研究メンバーのPD、博士課程後期課程大学院生）の役割、教育効果を具体的にご説明ください）。

#### 2010年度活動概要

##### 1 データベース作成

- 1.1 植民地期「朝鮮」日本語文学雑誌データベース
- 1.2 『京城日報』データベース
- 1.3 阿片問題関連資料データベース
- 1.4 「南洋」日本語刊行物データベース

（「南洋及日本人社」刊行物をはじめとする貴重資料のデジタル保存）

##### 2 海外調査

- 2.1 国立中央図書館台湾分館

##### 3 他研究機関との協力態勢

- 3.1 韓国高麗大学校日本研究センター
- 3.2 立命館大学平和ミュージアム
- 3.3 インドネシア大学

##### 4 「外地」文学研究会（月1回）

##### 5 シンポジウム

- 5.1 「<外地>文学研究の現在(仮)」2011年10月頃開催予定

##### 6 学会発表・論文

- 6.1 論集『<外地>文学への射程』2011年12月出版予定

本プロジェクトは、東アジア・東南アジア圏の日本語文学に関するデータベース作成と、それに基づいた研究の展開を目的とする。また、それと同時にアジアの日本近代文学研究者と連携して、国際的な研究拠点となることを目指すものである。

主な活動内容としては、(A)「外地」日本語文学に関する貴重資料のデータベース化、(B)資料調査収集と他研究機関との国際的な協力態勢の構築、(C)研究活動、の3つに大別することができる。

活動概要の[1]に該当する(A)のデータベース公開では、これは拠点開始以来継続してきた植民地「朝鮮」に関するデータベースから、新たに「南洋」の日本語刊行物に関するデータベースの構築を予定している。「南洋」については既に、本研究班のリーダーである木村一信を中心として『爪哇日報』（国内未所蔵）の調査を進めてきたが、本年度からはさらに対象を広げ、「南洋及日本人社」刊行物をはじめとする 外地 日本語刊行物の調査を追加する。本年度はプロジェクト活動としては最後の年となるが、デジタル・ヒューマニティーズの実践は今後も継続して行われる。「朝鮮」から「南洋」へとデータベースの幅を広げることで、いずれは「中国(旧占領地)」「台湾」「満洲」へとつなげてゆき、最終的には 外地 日本語文学研究における体系的なデータベースの完成を目的とする。

活動概要[2]～[5]に該当する(B)であるが、上記のデータベース化にあたり、国立中央図書館台湾分館での調査を開始する。国立中央図書館台湾分館には他にも、戦前・戦中期の南方進出に関わる資料を所蔵されているとみられ、これらのデジタル保存と日本国内での公開は当該研究領域の大きな課題であるといえる。また昨年度までに調査協力を得た高麗大学校日本研究センター、インドネシア大学、立命館大学平和ミュージアムの共同研究体制は本年度も継続し、シンポジウム「<外地>文学研究の現在(仮)」などを通じて、 外地 文学研究の方法論を定位させてゆきたい。

活動概要(C)に該当する [6]では、本年度までの3年間のプロジェクトの成果を、論集『<外地>文学への射程』にまとめる。本書は当該研究領域における先進的かつ総合的研究であり、本COEの刊行物の中でも特に重要な位置を占めることになるだろう。執筆には木村、楠井、三上の全員が担当する他、学外の日本語文学の専門たちも参加する。

以上の活動は、いずれも本プロジェクト研究メンバーの研究対象と密接な関わりを持つものであり、各自の研究活動と連動する内容である。従って、他にも各メンバーが学会発表・論文投稿によって積極的に拠点の成果を公表していき、研究者としての経験と業績を蓄積することが大きな教育的効果を持つ。また、これらの活動を通じて対外的な情報発信を行うことがデジタル・ヒューマニティーズの実践であると考えられる。

7. 教育研究計画・方法		
教育研究目的を達成するための計画・方法、実施する場所をできるだけ具体的に記入してください		
実施時期	計画内容	実施場所
2011年 4月 -	小野佐世男『ジャワ従軍画譜』の編集(木村) 『南方徴用作家 マレー篇』全16巻の編集(木村)	
5月	既存データベースの最終調整	アート・リサーチセンター
6月	『外地文学への射程』所収論文の執筆 平和ミュージアムでの文献資料調査	平和ミュージアム
7月	『外地文学への射程』編集・校訂 外地文学研究会 GCOEセミナーでの研究報告	アート・リサーチセンター
8-9(未定)月	台湾での文献資料調査	国立中央図書館台湾分館
9月	データベース入力作業(楠井、三上) 紀要『アート・リサーチ』への論文投稿(三上)	アート・リサーチセンター
10月	拠点成果に基づいた学会発表(三上)	日本文芸学会
11月	シンポジウム「<外地>文学研究の現在(仮)」開催	アート・リサーチセンター
12月	論集『<外地>文学への射程』出版	